

海上における船舶ための共通通信システムの在り方及び
普及促進に関する検討会WG 第6回会合 議事要旨（案）

1 日時 平成20年9月24日（水）14:00～16:00

2 場所 総務省11階会議室

3 出席者

（1）構成員（敬称略）

林 尚吾（座長）、足立 利男、天辰 弘二、有竹 信夫（代理）、大久保 隆洋、大西 泰史（代理）、野田剛夫（代理）、菊地 剛、窪田 英弥、桑原 和栄、小池 貞利、小泉 一葉、河野 順、斎藤 春夫、斎藤 光明、清水 偉行、末松 範之（代理）、杉浦 毅、谷道 幸雄、田原 孝義、豊嶋 基暢、中村 勝英、藤田 泰彦、増田 正司、待場 純、宮寺 好男、山崎 保昭、山田 力、山本 廣、吉田 努、渡辺 悟

（2）事務局

鳥巢衛星移動通信課長、濱崎課長補佐、成瀬課長補佐、松井海上係長

4 議題

- （1）意見募集の結果について
- （2）中間取りまとめについて
- （3）検討会後半の検討事項案について
- （4）その他

5 議事概要

（1）意見募集の結果について

・「27MHz（海岸局補完型）」における対応方針案について、「共通通信システムとしての活用方法は…」とあるが、中間取りまとめで共通通信システムとして不適切と結論づけたところ、再検討を行うのか。

→検討事項から削除するのではなく、可能な範囲内の手段として検討しては。

→システムとしての条件を検討するには、十分な時間がない。

→27MHzは、システムの一候補としては残すが、共通通信システムとして検討するのは難しい。

・「ID番号がなく識別できない」とあるが、IDとは何か。

→ATIS等。

・「識別」において提出された意見に関して、JASREPとは、そもそも沖を航行する外航船等の大型船舶が、任意に自船の位置を海岸局に通報するシステムであり、小型船舶は対象としていない。

（2）中間取りまとめについて

- ・十分な到達距離として「10～12 マイル程度」とあるが、これについては、以前から疑問を感じている。
- 大型船と小型船との間の通信であるから妥当。
- 安易に数字を出すのは、誤解を招く恐れがある。
- 空中線電力も影響するため、距離要件は保証が難しい。
- 特にハンディ型は、到達距離を導出するための条件が多くて難しい。
- 空中線電力は、商品によって多少決まってしまう。
- 到達距離なり空中線電力なりは制度設計の段階で、議論いただく。
中間取りまとめ内容については、意見募集を行った後なので変更は難しいが、用途の在り方については、改めて明確にする必要があるようだ。

(3) 検討会後半の検討事項案について

- ・「27MHz 無線機器と国際VHFとの通信」において、具体的用途、そのための技術的アプローチを再検討するとあるが、既に検討会前半で、海岸局補完型として検討しているの、再検討はいらない。
- 記載しているのは、必要に応じての、中長期的な検討という意味。
- ・漁業船舶局へ共通通信システムを普及促進するための支援策を検討するとあるが、具体的にどのような検討を行うのか。
- 意見募集の結果、寄せられた意見に対してレスポンスする必要もあり、具体的な形は今後検討。
- ・「FCC ルール無線機器の導入」について、FCC ルールの周波数は、国際ルールの周波数と異なる。そのため海岸局への混信影響がないか運用面でも検討すべき。

【配付資料】

資料海共 WG6-1	海上における船舶のための共通通信システムの在り方及び普及促進に関する検討会 ワーキンググループ第5回会合議事要旨（案）
資料海共 WG6-2	海上における船舶のための共通通信システムの在り方及び普及促進に関する検討会 中間取りまとめ（案）に対する意見募集の結果要旨と対応方針案
資料海共 WG6-3	海上における船舶のための共通通信システムの在り方及び普及促進に関する検討会 中間取りまとめ
資料海共 WG6-4	検討会後半の検討事項（案）
資料海共 WG6-5	今後のスケジュール（案）

【参考資料】

参考海共 WG6-1	海上における船舶のための共通通信システムの在り方及び普及促進に関する検討会 中間取りまとめ（案）に対する意見募集の結果一覧
------------	---